

今週（11月28日から12月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が315兆円前後と高水準で推移する中、引き続き弱めの展開となった。無担保コールO/Nは概ね▲0.08～▲0.03%のレンジで取引された。ただ、大手行の調達意欲は引き続き弱く、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.05%台前半で推移したが、週末になると税揚げ要因もあって若干調達意欲が戻り、レートは上昇した。ターム物に関しては、年内物の1W～3W程度で▲0.03～0%の出合いが中心となった。固定金利方式の共通担保資金供給オペは、1日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,510億円（期落ち分1,510億円）で札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲0.12～▲0.085%程度でのレンジでの取引となった。週初28日のS/Nは、月末日を挟む取引となった事からオファーサイドが薄くなり、出合いの中心は▲0.12%程度まで低下。29～30日にかけてのS/Nは、月末要因が解消された事で投資家の資金調達ニーズが戻り、▲0.095%程度の出合い。短国3M物の発行日の取引となる1日のS/Nは更にレートが上昇し、▲0.09～▲0.085%程度の出合い。短国買入オペがオファーされた9日のS/Nは、▲0.095%程度の出合い。個別銘柄では5y125～129、10y335～344、30y49～52などのカレント銘柄周辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、日銀の短国買入オペが減額傾向にある中、依然として海外勢のニーズは強く、年末に向けた担保需要も相まって、全般的に強含みの展開となった。1日には3M物の入札が実施された。海外勢の積極的な買いからか、WI取引で▲0.345～▲0.34%での出合いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.3408%、按分落札利回▲0.3330%と好調な結果となった。セカンドリーでは一時▲0.3925%の出合いも見られた。短国買入オペは2日に5,000億円で実施された。平均落札利回較差▲0.030%、按分落札利回較差▲0.059%（按分比率54.4%）と、品薄感を反映した底堅い結果となった。30日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「概ね現状程度の残高を維持する。この結果、12月末の残高は41～43兆円程度になると見込まれる」と発表された。11月末の日本銀行の国庫短期証券買入残高（金融機関からの買入残高）は42兆8,832億円と見込まれ、その内12月中に償還を迎えるものは6兆1,817億円であることから、12月に実施される短国買入オペは合計4～6兆円程度と想定される。ただし、2日の短国買入オペのオファー額が5,000億円であったことから分かる通り、市場の品不足感は相当に強い。季節的な要因から12月は品不足となり易い時期であり、過去数年間、12月における短国買入オペオファー額は3兆円を超えたことは無い。今月に実施されるオペの合計オファー額は、日銀の見込みから算出されるものより減少する可能性が高く、3兆円前後となることも考えられる。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額9,000億円強に対し、週間発行総額は1兆4,000億円程度と大幅に膨らんだ。28日は月末発行にあたり、配当金・賞与・税対応等の資金調達ニーズからか、あらゆる業態から大型の発行が見られた。そのため、11月末の市場残高は15兆1,349億円（前月比+9,936億円、前年比▲3,837億円）と前月から増加した。前年比での減少は続いているものの、金融法人の減少が一服しつつあり、事業法人が増加傾向にあることで、減少幅は縮小が続いている。発行レートについては、発行が膨らむ中でも、0%付近では投資家の運用ニーズが弱まることはなく、年内物においては0%に限りなく近いプラス圏での決着となった。年越え物においてはCP等買入オペを睨んだ積極的な玉確保の姿勢が見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
11/28（月）	18,356.89	0.010	112.10	△ 0.054	△ 0.093	3,149,000
11/29（火）	18,307.04	0.010	112.05	△ 0.052	△ 0.103	3,155,900
11/30（水）	18,308.48	0.015	112.39	△ 0.054	△ 0.098	3,177,000
12/1（木）	18,513.12	0.030	114.40	△ 0.051	△ 0.095	3,166,000
12/2（金）	18,426.08	0.035	113.73	△ 0.049	△ 0.093	3,104,100

## 来週（12月5日から12月9日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/5 (月)	パリ・ユーロプラス・フィナンシャル・フォーラムにて黒田総裁講演 12月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 11月の消費動向調査(内閣府 14:00)				11月のFRB 労働市場情勢指数 11月のISM 非製造業景況指数
12/6 (火)	10月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	流動性供給 4,000億円 12/8発行			10月の米貿易収支 10月の米製造業新規受注・出荷・在庫 7-9月期のユーロ圏GDP確報値
12/7 (水)	岩田副総裁、長崎県金融経済懇談会にて講演 11月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 10月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 35,000億円 12/12発行	交付税借入 10,500億円 12/16借入		10月の米消費者信用残高
12/8 (木)	7-9月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 10月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 11月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 44,000億円 12/12発行	30Y 8,000億円 12/20発行		ECB定例理事会(金融政策発表)
12/9 (金)	10-12月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50) 11月のマネーストック(日銀 8:50) 10月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	エネルギー 対策借入 6,000億円 12/20借入			10月の米卸売売上高 12月のミシガン大消費者信頼感指数速報

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/5 (月)	▲ 400	▲ 3,800	▲ 4,200	全店共通 CP買入	▲ 1,500 ▲ 300	1,500	▲ 300	▲ 4,500	TB3M発行▲44000償還37900
12/6 (火)	▲ 1,000	2,000	1,000	国債買入 短国買入	12,300 5,000		17,300	18,300	
12/7 (水)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
12/8 (木)	▲ 2,000	▲ 1,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	流動性供給▲4000
12/9 (金)	▲ 2,000	▲ 3,000	▲ 5,000	CP買入	4,500		4,500	▲ 500	交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	▲ 6,400	▲ 7,800	▲ 14,200	—	20,000	1,500	21,500	7,300	

12/5は日銀予想、12/6以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

来週のインターバンク市場は、2日の税揚げや、11月の積み期間後半に差し掛かることなどの要因から、調達先が増えることも予想されるが、無担保コールレートへの影響は限定的と見られる。

短国市場は7日に6M物、8日に3M物の入札が実施される予定となっている。品不足感が強い中、海外勢の買いが強いことから、引き続き強含みの展開が予想される。9日に実施される短国買入オペのオファー額にも注目したい。

CP市場は6日にCP等買入オペが4,500億円程度で実施される予定となっている。発行案件が膨らみつつあるものの、前回よりも1,000億円の増額となることで、買入対象の銘柄数によってはレートの低下も期待される。

主要なイベントとしては、国内では8日に7-9月期のGDP2次速報値、海外では8日のECB定例理事会などが挙げられる。また、2016年12月～2017年2月の積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が9日の17時に公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入